

福祉長野

ふくしながの

69

2017.5.1

編集・発行

社会福祉法人
長野市社会福祉協議会
〒380-0813長野市大字鶴賀緑町1714-5
TEL.225-1234

ふれあいネットワーク



目 次

特集

新しい総合事業における地域の取組について	2~5
平成29年度事業計画及び予算	6
平成28年度 共同募金結果報告	7
相談窓口	8
ご寄附のお礼	8
賛助会員募集のお願い	8
クイズ	8

平成27年度介護保険法の改正により、長野市においても「新しい総合事業」がスタートし、介護予防をテーマとした様々な取組が行われています。

今号では、「新しい総合事業」の概要と地域での取組をご紹介します。

「ふくしながの」は
共同募金からの
配分金で発行しています。



特集 新しい総合事業における地域の取組について

高齢者のひとり暮らし世帯や高齢者のみの世帯、認知症高齢者の増加が予想され、人間関係の希薄化や社会的孤立が課題となっています。また、支援の必要な方について、生活の全てにおいて支援が必要とされているわけではなく、地域のつながりを維持しながら、本人の自立した生活につながる柔軟な支援が必要とされています。

このため、平成27年に介護保険法が改正され、市町村において取り組む地域支援事業が、その内容を多様化・充実したものに整理されました（下図：【地域支援事業】参照）。多様な生活支援ニーズについて、従来の画一的なサービスから、本人の能力を最大限活かしつつ、住民等が参画する多様なサービスを総合的に提供可能なしくみに見直されました。

その中でも「新しい総合事業」の実施に当たっては、ボランティアグループとの連携を図る等、地域の人材を活用していくことが重要とされています。長野市においても、昨年度からモデル地区による地域での取組が始まっています。

今号では、事業における大切な視点を挙げ、この視点に基づいた取組をいくつか紹介します。



地 域 支 援 事 業



地域包括ケアシステム※の実現に向けて、高齢者の社会参加・介護予防に向けた取組、配食・見守り等の生活支援体制の整備、在宅生活を支える医療と介護の連携及び認知症の方への支援の仕組み等を一体的に推進しながら、高齢者を地域で支えていく体制を構築するため、市町村において「地域支援事業」を実施。

新しい総合事業

◆介護予防・生活支援サービス事業 (対象者：要支援1・2、事業対象者)

- ・訪問型サービス
- ・通所型サービス
- ・生活支援サービス



◆一般介護予防事業

- ・地域介護予防活動支援事業

包括的支援事業

- ◆地域包括支援センターの運営
- ◆在宅医療・介護連携の推進
- ◆認知症施策の推進
- ◆生活支援体制整備

（コーディネーターの配置、協議体の設置等）

任 意 事 業

- ◆介護給付費適正化事業
- ◆家族介護支援事業
- ◆その他の事業



取組に大切な3つの視点



住民一人ひとりの参画

多様な
担い手による取組

関係者による
ネットワーク

※団塊の世代が75歳以上となる2025年を目指し、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるしくみ。

特集

このあたりでは、独居の高齢者が多く、クラブでの交流をとて



川中島地区今井原区
今井原ストレッチクラブ

住民一人ひとりの参画

「介護保険を使わずにいつまでも健康でいたい」そう話すのは、「今井原ストレッチクラブ（以下、クラブ）」に通う参加者の皆さん。平成28年11月から市が行う介護予防クラブへの支援を受けて取組が始まりました。毎週水曜日午前10時～11時30分の間、今井原集会所には元気な声が響き渡ります。

クラブの立ち上げは、民生委員の村山さん。もともと体を動かすことが好きで、川中島支所での出前講座に参加したのがきっかけでした。今井原区でクラブを開催したいと思い、市の介護保険課の介護予防クラブ支援事業を利用して開催に至りました。

クラブの内容は椅子を使った筋トレやストレッチ、口腔体操、ボールを使った体操など多岐にわたります。

参加は自由で毎回15人程が集まるそうです。参加者は女性がほとんどで、参加されている方からは「みんな」と会えて話ができることがうれしい、「輪の中に入ることができてうれしい」と語ってくれました。

このあたりでは、独居の高齢者が多く、クラブでの交流をとて

も楽しみにしているそうです。

クラブの特徴は、参加する方が運営に携わること。ただ参加するだけでなく、参加者が当番制で準備をします。

参加者のクラブへの想いも強く「もっと多くの人に参加してほしい」「デイサービスに通っている人や男性にも参加してほしい」と話をされていました。

「クラブに参加してもうひとつことで、皆さんの生活状況がわかり、また参加者の近隣住民の様子がわかるのでうれしい」と村山さん。

今後の目標は、参加者で季節おりおりの行事を開催することだそうです。

松代地区代官町

にこにこクラブ

住民一人ひとりの参画

松代地区代官町では、毎週月曜日10時～11時30分の間、「にこにこクラブ」を開催しています。ここにこクラブでは、筋トレやストレッチ、口腔体操を行っており、平成28年10月から自主活動がスタートしました。名簿には30名以上の名前がずらり。

前がずらり。

特徴は、男性の参加者が多く活気があること

です。代官町ではもともと、シニア俱乐部によ

る囲碁将棋俱乐部やカラオケ教室が盛んに行わ

れています。地域での様々な活動にアクティビ

シニアの男性の方が参加しています。お互いに

声をかけあうことで男性参加者が多くなっています。

この日は、近隣の60代から80代の方14名程が集まり、健康体操、ビーチボールバレー、トルンプゲームを行いました。活動には介護保険課からのアドバイスをもらいつつ、参加者が楽しみながら身体や頭を使うことが出来るプログラムを取り入れています。

会場の設営などは東区の福祉健康部会の役員さんを中心に行っていますが、それぞれのプログラムは参加者も役割分担をしながら進行しています。講師と受講者という関係ではなく、みんなで楽しんでいる様子が伝わってきます。

残っている内容は、「仲間が増えた」と回答している人が大勢いたことです。

実際参加者に話を聞

いても「仲良くなれた

ことがうれしい」と話をされました。

また民生委員や区長さん

からは「地区的状況が

わかる」といったコメントも聞かれました。

今後も団結し、さまざま

なアイデアを出し

て地区を盛り上げてい

きたいとのことです。

大豆島地区東区

東区まめやかクラブ

住民一人ひとりの参画

この日は、近隣の60代から80代の方14名程が

月曜日の午前中に東区公民館で開催しています。

昨年度、市介護保険課の介護予防クラブ支援事

業を利用した講座をきっかけに、その後も定期

的に続けています。



平成29年1月には、参加者を対象にアンケートを実施しました。「にこにこクラブ」に参加して、体調の変化や日常生活の変化などについて皆さんが回答しています。その中で特に印象に

代表の宮島さんと協力者の元民生委員の田中さんにお話を伺つたところ、東区では数年前から実施している「ふれあいラジオ体操」をはじめ、地域福祉の取組を少しづつ積み重ねてきたそうです。その実践を通して、住民の中に福祉への理解や活動を進めやすい雰囲気が醸成され、今回の取組にもつながったといつこことです。

お一人からは、「健康づくりや介護予防はもちろん大事です。でも、取組を通して地域の皆さんがつながつていくことがとても嬉しいです。今後は区内への積極的なPRや、参加者を『お客さん』にせず、主体的に関わってもらえるような運営を目指しながら、無理せず続けていくたい」と笑顔で語っていました。



長野市介護保険課からは――

ここまで紹介した3つの取組は介護保険課の介護予防クラブ支援事業を活用して行われています。事業を担当している作業療法士の中西さん伺いました。

心がけていることは「主役は地域住民で、介護保険課はサポートする立場」ということ。

この事業では、住民の皆さんのが「できるだけお元気で暮らすための自主的な介護予防を身近な場所で続けること」を支援しています。「地域住民のネットワークづくり」や「ちょっと元気がなくなった方でもその場所に参加し続けらること」も大切にしてほしいと話していました。住民一人ひとりの参加が暮らしやすい地域をつくっていることがわかります。続いて残り2つの視点を踏まえた取組をご紹介します。

川中島地区 NPO法人エコライフ・プロジェクト信州

多様な
担い手による取組

エコライフ・プロジェクト信州(以下、エコしん)は、企業内ボランティアを前身に、平成27年にNPO法人として設立されました。「皆で考え方住み良いまちづくり」を理念に、20年先を見据えた取組を11部会に分かれて展開しています。

なかでも、JAグリーン長野が高齢者福祉事業として、地域の高齢者の健康づくりや生きがいづくりを目的に実施する「グリーンカフェ」では、JAの総合企画部を中心に、エコしんも関わりながら、JA川中島支所併設の「ミニユーティプラザ」で、毎週火曜日に各種講座や交流のイベントを開催



しています。

昨年の10月に開催した「麻雀・囲碁・将棋の集い」は反響が大きく、翌月から「グリーン健康麻雀俱楽部」を立ち上げ、定期的に開催する形になりました。

この4月からは、市介護保険課の介護予防クラブ支援事業を利用し、「はつらつ体操」に取り組む自主活動グループを立ち上げようと、エコしんとJAが連携した企画が展開されています。

他の取組としては、昨年の10月から「不燃物等の出前回収」が始まっています。不燃ごみを出すことが大変な高齢者について、区長や民生委員からの相談が寄せられたことがきっかけでした。

事前に対象者と区の役員を含めた面談を行い、回収日時や場所を確認し、ごみの回収を行っています。利用者からは多くの感謝の声をいただき、メンバーのやりがいにつながっています。

今回、お話を伺つた宮下理事長と片桐副理事長は、「他のNPO法人との違いは、生活全般における助け合いを目的としていること。区による自治活動も当然必要であるが、区では担い切れないものもある。そういう課題に連携して対応することが自分たちの役割と考えている」とのこと。

「身の丈の活動」を大事にしつつ、住民の皆さんに「より良いまちは?」と投げかけながら、顔の見えるつながりや新たな担い手づくりを進めていきたい」と今後の抱負をお話しいだきました。



特集

鬼無里地区住民自治協議会
福祉熱人(ネット)ワーク会議

関係者によるネットワーク
によるネットワーク

新しい総合事業を推進するために必要な取組として、鬼無里地区の「福祉熱人(ネット)ワーク会議」をご紹介します。きっかけは平成26年度に地域福祉ワーカーが抱えたある悩みからでした。

地域福祉ワーカー



カーはその名の通り、地区内の様々な福祉活動を推進していく役割を担っていますが、所属する住民自治協議会の立ち位置や、保健センター・や社協などの関係機関がどのような業務をおこなつていて、どう連携をとつていくべきなのかを十分に理解することが出来ず、とても戸惑っていたそうです。

そこで、「まずは顔合わせをしてみよう」ということで、関係者4人の会議から始まりました。現在では、市役所支所や老人福祉センター、公民館、消防署分署、駐在所、農協、郵便局など鬼無里地区内の様々な機関が参加するネットワークが形成されています。

毎月1回定期的に集まり、情報共有するだけでなく、課題を抱えた方の相談ケースを検討し、地域内の支援につないでいます。

係者がお互いの仕事内容を理解し、スムーズな連携につながるだけでなく、新たな取組が生まれるようになっています。ちょっとした困りごとに応してもらえる場があつたらというケアマネジャーの要望を基にした、週に1回支所の一角で行う「きなサロン」や、これまでの「生きがいデイサービス」に代わる場として、月に2回送迎や入浴のサービスを取り入れた「鬼無里の湯ふれあいサロン」など、福祉熱人ワーク会議をきっかけとする取組が始まっています。

新しい総合事業を推進するためには、関係者が連携する場としての「協議体」が位置付けられており、福祉熱人ワーク会議はまさに「協議体」としての機能を発揮しつつあります。人口減少や高齢化が進んだ地区だからこそ「連携こそ全て」と、地域福祉ワーカーの古畑さんは思いを込めて語ります。



新しい総合事業の展開について

関係者同士の「顔が見える関係づくり」を丁寧に進めていくことで、貴重な地域資源が「掛け算」になれば人口減少も怖くない!と古畑さんは思ひを込めて語ります。

関係者同士の「顔が見える関係づくり」を丁寧に進めていくことで、貴重な地域資源が「掛け算」になれば人口減少も怖くない!と古畑さんは思ひを込めて語ります。

私たちがこれまで地域の皆様と取り組んできた「地域福祉」は、住民一人ひとりの参画が無いこと成立ません。

また、地域には様々な活動をしている方々がいます。そのような「地域の資源」が生み出します。多様な活動があるからこそ、豊かで活力のある地域となります。

さうには、様々な担い手が連携し、目的を共有することで、新たな取組を生み出すことができます。

今回の特集では、介護保険制度の改正による「新しい総合事業」のポイントを踏まえながら地域の取組を見てきましたが、一連の取組は、今まで取り組んできた地域福祉活動の延長線上にあるといえます。

介護保険制度の枠組の中で捉えるのではなく、超高齢社会を迎えた現在、私たちが今まで大切にしてきた視点を活かしながら、地域全体が関わる「福祉のまちづくり」の取組として理解することが大切です。

まじめ 地域福祉の視点を活かした取組へ

社会福祉法人長野市社会福祉協議会

平成29年度 事業計画及び予算

基本方針

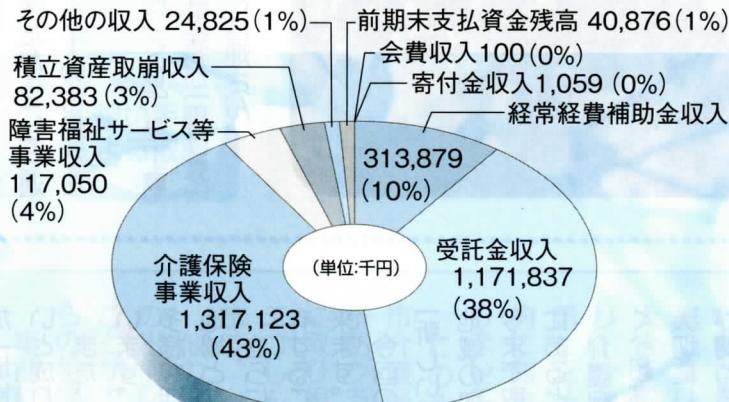
- 福祉課題への迅速な対応と効率的な法人運営に努めます。
- 地区訪問等を通じて住民自治協議会への継続的な支援に努め、本年度から地域福祉ワーカーが担う地域支援事業の生活支援コーディネーター業務についても長野市と連携して支援をします。
- 民生委員・児童委員等との連携により支援を必要とする人の早期把握や見守り機能の強化に努めます。
- 公的支援・サービスでは対応が難しい様々な困難を抱えながらも自立に向けて歩みを始める方々への身元・入居保証、食料支援等を目的に長野県社会福祉協議会と県内の市町村社会福祉協議会が共同して取り組む長野県あんしん創造ネット事業に参加します。
- 介護サービスにおいては、利用者の権利と人格を尊重し、地域の一員として自分らしい生活を営むことができるよう自立支援に資する質の高い介護サービスを提供するとともに、事業活動にあたり効率性・収益性を意識しながら関係機関や地域住民等と連携を図ることで、福祉・介護の拠点として地域に貢献できる事業所を目指します。

長野市社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な団体として、誰でも安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを推進する使命を達成するために、以下の事業・経営理念に基づき事業を展開します。

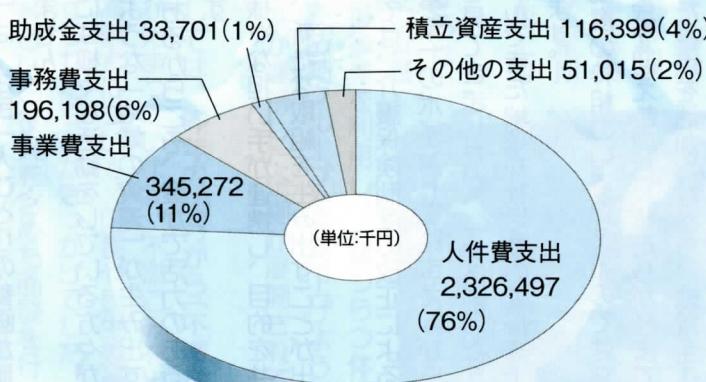
事業理念 1 住民参加・協働による福祉を基盤としたまちづくり
事業理念 2 その人らしい生き方や暮らしを尊重した支援の実施
事業理念 3 状況に応じた柔軟で迅速な取組の実施
経営理念 1 地域住民に分かりやすい機能的な組織体制の確立
経営理念 2 健全な財政運営の実現



◆収入の部		(単位:千円)
会費収入		100
寄付金収入		1,059
経常経費補助金収入		313,879
受託金収入		1,171,837
介護保険事業収入		1,317,123
障害福祉サービス等事業収入		117,050
積立資産取崩収入		82,383
その他の収入		24,825
前期末支払資金残高		40,876
収入予算		3,069,132



◆支出の部		(単位:千円)
人件費支出		2,326,497
事業費支出		345,272
事務費支出		196,198
助成金支出		33,701
積立資産支出		116,399
その他の支出		51,015
支出予算		3,069,082



当期資金收支差額(翌年度へ繰越) 50

平成29年度事業計画(要)(三)

平成29年度予算



じぶんの町をよくするしくみ

皆さんのおかげで、長野市の福祉は良くなります!

平成28年度
赤い羽根共同募金結果

総額 58,261,925円

昨年10月1日から12月31日に長野県共同募金会が実施主体になり、赤い羽根共同募金が長野市においても実施されました。目標額(58,467千円)を達成することは出来ませんでしたが、多くの皆様のご協力に対して、あらためて感謝申し上げます。皆様よりいただいた貴重な募金は、下記のとおり平成29年度の地域福祉活動事業に配分し活用させていただきます。

*共同募金は、社会福祉法に基づき、地域の民間福祉のニーズを受け付けてから募金を行う計画募金のため、その計画に基づいて目標額を設定しています。



募 金 方 法 別 内 訳	戸別募金	50,774,897円
	法人募金	6,383,386円
	街頭募金	378,337円
	学校募金	416,442円
	職域募金	122,173円
	その他	186,690円

*その他とは、イベントや募金機能付き自動販売機等で集まったものです。

共同募金は地域福祉活動に使われています!

高齢者を対象とした事業 1,237千円

- ・ひとり暮らし高齢者料理教室
- ・介護者支援事業(地区への助成)
- ・長野市老人クラブ連合会への助成など



障がい児・者を対象とした事業 8,864千円

- ・福祉自動車運行事業(地区への助成)
- ・きぼうの旅事業(地区への助成)
- ・障がい者とのふれあい交流事業など

広域配分事業(県共同募金会) 25,492千円

- ・社会福祉施設の改修
- ・社会福祉施設の移送車両の整備
- ・安心・安全なまちづくり活動支援
防災備品整備・避難対応備品整備
- ・歳末たすけあい
- ・「災害等準備金」として積立



児童・青少年を対象とした事業 2,527千円

- ・福祉教育普及校事業
(学校への助成)
- ・子育ち・子育て支援事業
(地区への助成)など

その他を対象とした事業 17,201千円

- ・福祉のまちづくり啓発事業(地区への助成)
- ・男性の地域デビュー促進事業(地区への助成)
- ・サロン事業(地区への助成)
- ・地区独自課題対応事業(地区への助成)
- ・ボランティアのつどい
- ・「ふくしながの」発行など

課題を抱える人を対象とした事業 2,941千円

- ・傾聴電話による相談事業
- ・福祉推進員活動推進事業
(地区への助成)
- ・災害救護金支給事業など

◆詳細については、
下記へお問い合わせください。

共同募金配分金は、
こんなことにも使われています。

災害見舞金品支給

交通又は災害の事故による被災家族(市内に住所を有する者)に対し、その福祉の増進を図るために、弔慰金又は見舞金を支給しています。

このほかに、日本赤十字社長野県支部及び長野県共同募金会より弔慰金、見舞金、見舞品の支給も併せて行っています。

長野市社会福祉協議会 総務課
電話 225-1234

社協の相談

お困りの方どなたでもご利用いただけます。

(ただし長野市在住又は長野市在勤の方に限ります。)

●相談は無料 秘密は厳守します

*いすれも祝・休日、年末年始(12月29日～翌年1月3日)はお休みです

長野市生活就労支援センター“まいさぽ長野市”

*困窮や孤立…困りことはなんでも! 生活困窮者の自立支援から総合的な相談まで「なんでも」受け止めます。
*原則予約制(まずはお電話でお尋ねください。)

- ▶相談日時 月～金曜日 8:30～17:15
- ▶場所 長野市ふれあい福祉センター2階
- ▶電話番号 219-6880
- ▶e-mail maisaponaganoshi6880@csw-naganocity.or.jp

いつも傾聴でんわ

かけてくださる方の心に寄り添って、お話を聴きする電話です。
専門の研修を受けたボランティアがお聴きします。

- ▶利用日時 毎週月・土曜日 14:00～18:00
毎週水曜日 14:00～21:00
- ▶電話番号 225-0404

【賛助会員】募集のお願い

本会は地域福祉を推進する中核的な団体として、住民の皆様の参画をいただきながら住民参加・協働による福祉を基盤としたまちづくりを推進していますが、より充実した活動をしていくためには、より多くの自主資源の確保が必要です。つきましては、広く個人、団体、企業等の皆様に賛助会費制度にご加入いただきますようお願い申し上げます。

年会費 個人賛助会費(1口) 5,000円

団体賛助会費(1口) 10,000円

*いすれも年額です。何口でもご加入いただけます。

◆入会についてのお問合わせ先

総務課総務担当 電話 225-1234

● 答え・氏名・住所・年齢・性別・ふくしながのや
本会についてのご意見、取り上げて欲しい情報等
をハガキに書いて左記までお送りください。
抽選により10名の方に「ふくしながのオリジナル
図書カード」をプレゼントします。
締め切りは6月1日(木)です。
送り先 〒380-0813 長野市大字鶴賀緑町
1714-5 長野市社会福祉協議会「ふくしながのクイズ」係

● 問題
長野市においても、「新しい○○」
事業が始まりました。
○○に入る言葉をお答えください。

「ふくしながのクイズ」で
図書カードを当てよう

きぼう相談 *電話・面接いずれも可 予約不要

相談員が生活の中で感じる不安や悩みなどさまざまな相談に応じます。

本部会場

- ▶相談日時 毎週火・金曜日 9:00～16:00
- ▶場所 長野市ふれあい福祉センター2階
きぼう相談室
- ▶電話番号 226-8200(相談日のみ利用可能)

篠ノ井会場

- ▶相談日時 毎週月曜日 9:00～16:00
- ▶場所 篠ノ井地区ボランティアセンター
- ▶電話番号 292-1151(相談日のみ利用可能)

法律専門相談 *面接のみ 予約が必要 (同相談は、お一人1回限りとなります。)

弁護士に困り事などを相談できます。

- ▶相談日時 毎月第3金曜日 13:00～15:00(変更有)
- ▶場所 長野市ふれあい福祉センター2階
きぼう相談室
- ▶予約受付電話番号 226-8200(本部)
292-1151(篠ノ井) (きぼう相談実施日のみ利用可能)

※上記、きぼう相談実施日にご予約ください。

ありがとうございます

平成28年12月から平成29年3月までにご寄附いただいた方々をご紹介します。

いただいた寄附金品は、長野市の社会福祉の向上や本会の事業のために、活用させていただきます。

宗教法人真如苑 信越本部 様

山田 恒雄 様

齊藤 泰全 様

長野市ママさんバレーボール連盟 様

NTT 労組退職者の会 長野地区協議会 様

倉嶋 貞美 様

長野市民生委員児童委員協議会 様

公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 長野県協会 様

東京海上日動火災保険株式会社 長野支店 様

長野県労働金庫 長野東支店運営委員会 様

長野市ママさんバレーボールクラブ 様

その他、匿名で1名の方から
ご寄附をいただきました。

